

農作物の当面の技術対策について注意喚起

令和6年4月23日
農業技術課

<天気概況>

甲府地方气象台から、今後の天気は不安定に経過するとの発表になっています。

週間天気予報によると、週の初めは湿った空気の影響を受けて「雨後曇」「曇時々雨」となっており、2週間予報では高温で経過する予報となっています。

山梨県の天気予報（6日先まで）								
2024年04月23日05時 甲府地方气象台 発表								
日付	今日 23日(火)	明日 24日(水)	明後日 25日(木)	26日(金)	27日(土)	28日(日)	29日(月)	
山梨県	曇 	雨 	曇後晴 	晴時々曇 	曇 	曇 	曇時々晴 	
降水確率(%)	-/10/20/30	70/90/70/50	30	20	40	40	30	
信頼度	-	-	B	A	C	B	B	
甲府 気温 (°C)	最高	23	19	28 (25~30)	28 (25~31)	24 (22~29)	28 (24~31)	27 (23~31)
	最低	-	14	14 (12~16)	16 (13~18)	16 (14~19)	17 (14~19)	17 (14~20)
向こう一週間（今日から6日先まで）の平年値								
降水量の7日間合計				最低気温		最高気温		
甲府	平年並 5 - 18mm			10.4°C		22.6°C		

また、1ヶ月予報によれば暖かい空気に覆われやすいため、気温は高い予報です。前線や低気圧の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は平年並か少ない見込みです。

今後の気象推移に注意し、農作物の管理には注意して下さい。



	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
関東甲信地方	低10 並10 高80% 高い見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少40 並40 多20% 平年並が少ない見込み
数値は予想される出現確率（%）です	<p>平均気温（1か月）</p> <p>低い確率（%） 50 40 40 50 高い確率（%）</p> <p>7 平年並も40%</p>	<p>降水量（1か月）</p> <p>少ない確率（%） 50 40 40 50 多い確率（%）</p> <p>7 平年並も40%</p>	<p>日照時間（1か月）</p> <p>少ない確率（%） 50 40 40 50 多い確率（%）</p> <p>7 平年並も40%</p>

< 気象予報 > 気象庁 4月23日時点

1 果樹

< 共通 >

- モモ、スモモ等は結実～幼果期、デラウエアは早場で花粉離散～第1回目ジベレリン処理期前、大房系ブドウは展葉期となっている。
- 曇雨天が続くと病害の発生が心配されるので、防除間隔があかないように防除を徹底する。また、次回の散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず、降雨前に散布する。
- 高温の乾燥防止は定期的なかん水に努める。7～10日間隔で、1回あたり20～30mmの十分なかん水を行う。
- 草生栽培園では、定期的な草刈りを実施し、水分競合を避ける。
- 樹冠下は、わらマルチや草刈りにより土壌の乾燥を防止する。とくに苗木や若木では徹底する。
- かん水施設等のない園では、樹冠下を中心に1樹当たり200～300リットルをかん水する。
- アザミウマ類やハダニ類の発生が多くなることが懸念されるため、定期的な防除を徹底する。

< 施設ブドウ >

- 果粒軟化期以降からは高温多湿によるムレ（果粒への結露）を抑えるため、換気が遅れないよう注意する。灰色かび病防止のため、ビニールマルチなどによりハウス内の湿度低下に努める。

< ブドウ >

- 黒とう病対策として、展葉初期の防除（チオノックフロアブル）を行う。早場地域や生育促進剤の利用により展葉が進んでいる園では、べと病の防除が

遅れないように注意する。

<立木類>

- モモせん孔細菌病対策として、落花直後から7～10日間隔で防除剤（アグレプト液剤・水和剤、マイコシールド）を散布する。また、黒星病の重点防除時期でもあるため、防除を徹底する。
- モモでは、満開後20～40日頃（第1肥大期）に急激な摘果を行うと、核割れ果、変形果、生理落果の発生を助長するため段階的に行う。
- 結実が不足している樹では、側枝単位での収量調節を実施する。特に新梢が徒長しやすいため、新梢管理を徹底する。

2 野菜

- 圃場の過湿を防止するため、圃場周辺に排水路を整備する。
- 施設野菜では、曇雨天から晴天への急激な天候変化に気をつけ、適切な換気や薬剤散布を行い病害の発生を抑える。
- 施設野菜
 - ・施設内が高温・乾燥にならないよう、日中25～28℃前後を目標に換気し、適宜、かん水する。
- スイートコーン
 - ・開花・受粉期の水不足が品質等に影響することから、適宜、かん水する。
- 露地野菜
 - ・定植後に乾燥が続く、朝方でも葉がしおれるような場合は、かん水する。

3 水稲

- 育苗にあたっては、気象の推移に応じて、きめ細かい管理を行う。特に、保護苗代及び施設育苗においては、最高気温に注意しトンネルまたはハウスの換気、水管理等に十分注意する。

4 麦類

- 出穂前後に降雨が多いと赤カビ病が発生することがあるので、薬剤散布による防除を行う。

5 花き

- 鉢花、洋ラン
 - ・日中、ハウス内が高温にならないよう、遮光や換気を徹底する。また、鉢の乾燥に注意し、こまめな水やりに努める。